

かがわ地域教育プラットフォームの推進

(平成24年11月 香川県社会教育委員の会提言)

1 提言にあたっての社会背景

- 子どもの頃の体験活動や集団遊びの減少等により、人間関係やコミュニケーションに課題を抱える若者が増加している。
- 家庭状況や家族構成も多様化してきており、家庭の中には心身ともに負担や困難が大きくなっているところもある。
- 年々、少子化が進むとともに、高齢化率が上昇を続け、超高齢社会を迎えつつある。
- 地域の連帯感やつながりが希薄になり、共助社会の構築が必要である。

2 前回の提言以降の取組みの実績

- 子どもの生活習慣の大切さを訴える啓発教材の作成と実践を組み合わせた啓発活動を進めた。
- 保護者同士の交流による学びや気づきをうながす参加型学習を普及させるために、その支援にあたる家庭教育推進専門員を養成し、活用している。
- 地域教育活動の実践マニュアルを作成し、活用促進に向けた研修会を実施し、地域教育関係者の資質向上や交流の促進を図った。

3 地域コミュニティの創造と生涯学習

- 時代にあった地域コミュニティを創造するために、多様な主体が緩やかなネットワークを形成し、公共を支えるそれぞれの役割や責任を明確にするとともに、共有することが必要である。
- これまでの社会教育関係団体の組織のあり方の見直しと団塊世代や高齢期の人材が地域の中で活躍できるような仕組みづくりが必要である。
- 地域課題へ取り組む多様な組織が、自らの課題を設定して、課題解決への道筋をつけ、周辺の組織や個人と連携して実現するようなモデルプログラムが求められる。

4 地域教育プラットフォームによる学校・家庭・地域の教育力を高める取組み

- 「かがわ地域教育プラットフォーム」とは、地域で活動する組織や団体・個人が乗り入れる場所であるとともに、地域の教育資源に関する情報の集積場でもあり協議の場でもある。
- 「かがわ地域教育プラットフォーム」の課題は、地域ごとにその形が異なり、その課題に向けて多様な組織・個人がつながり、協力して取り組むことが大切である。そのためには、多様な組織や団体・個人をつなげるための調整を行うコーディネーターの存在が必要になる。

5 香川県の生涯学習推進施策

- すべての保護者が集まる機会を活用した学習会や保護者同士の人間関係を築くことのできるワークショップの手法を用いた参加型学習会等の継続的な実施が必要である。
- 子どもの望ましい生活習慣づくりに向けた気運を高めるための啓発活動や、困難な状況におかれた家庭の支援方策として、電話相談や面接相談等を引き続き実施する必要がある。
- 地域で活動する様々な組織や団体、個人がつながり、互いのネットワークづくりを図りながら進めていく「かがわ地域教育プラットフォーム」のモデル的な取組みをサポートしていくことが必要である。
- 団塊の世代や高齢者が持っている知識・経験や生涯学習で学んだ成果を活かすような地域教育活動等のモデル的な取組みを推進・普及・啓発していく必要がある。